

# 議員セミナー受講報告書

【太田広則】



研修日時：平成26年11月13日（木） 13：30～16：30

研修先：メルパルク京都

研修項目：地域包括ケアシステムの理解と行政の役割

## ○所感

地域包括ケアシステムに関しては、本議員がこの研修を受ける前の平成26年9月定例会において、すでに本執行部に対して一般質問をしているシステムである。

この地域ケアシステムの構築については、国において介護保険改正案の主な内容であり、多いに関心のある事であり、この構築こそが、今後の超高齢社会を地域で支えていく重要なケアシステムと考えている。そう言った観点で丁度この議員研修セミナーがあり、再度このシステムの基本的な事の確認、さらなる理解と向学の意味を込めて受講した。

自治体経営コンサルタントの川本達志先生の話は非常に解り易く、行政執行部の事を熟知しておられ、我々議員の視点からもとても解り易く説明下さり大変に勉強になった。

特に印象に残った言葉は、地域作りその物が地域包括ケアシステムであり、その自治体の介護保険事業計画を良く理解しておかないといけない。

この地域包括ケアシステムを充実させる以外に道はない。である。

又、一番大事なのは何のためにやるか？でありケアシステムは一手段であり、目標を持ちその目標は出来るだけ数値化するという事が大変参考になった。

最後に、今回のこの研修を受けて思った事は、団塊の世代の人が75歳を迎える2025年に向けての大事なケアシステム構築を急がねばならない事、介護サービス、医療・介護のさらなる連携強化、住宅施策、生活支援、介護予防、人材の育成には、介護職の処遇改善が不可欠などの決定、実行を急がねばならない事が明確になって、大変有意義なセミナー受講であった。

さらに、この地域包括ケアシステムの充実については関心を持ちながら、決して他所事ではなく、近い将来自分にも当て嵌まる事でもある事から、微力ながら本市の包括ケアシステムの構築に応援して行ければと考える次第である。

(参考までに、今回の地域包括システムの資料コピーを添付)

# 議員セミナー受講報告書

【太田広則】



研修日時：平成26年11月14日（金） 9：30～11：30

研修先：メルパルク京都

研修項目：国民健康保険制度の理解と今後

## ○所感

わが国において社会保障制度の充実は必要不可欠であり、多岐にわたって大変複雑であり、我々議員にとっても難解な所が山ほどある。特に医療保険については種類も多く、特に自営業者や農林漁業従事者などが加入する国民健康保険制度については、他に職を持たない議員も加入する事から、この研修を切望していた。

13日に続いての川本達志先生が講師であった。

国保の課題はやはり先生も複雑過ぎて、国の制度を市町村で議論するから我々議員も質問し辛い部分があるとおっしゃっていた。

又、首長がどう考えるかしかないのだが、首長自体も複雑過ぎて理解していない首長も多い。と言われて少し安心をした。

特に、国民保険財政の仕組みや予算の組み方（収入）の部分や国民健康保険料（税）の仕組みや算出方法など、普段独学では、中々理解出来にくい所を勉強できて本当に良かった。

やはり、2025年以降の医療費がどうなっているのか？多いに心配、懸念される所の認識を強く持つ事ができた。

様々な課題を抱える中で、川本先生が最後におっしゃっていた国保の支出の見積もりをしっかりと把握し、ここにやるべき事が隠されている。市町村の役割は大変に大きい。という言葉が非常に印象に残った。

又、今後の制度維持、保険料を抑えるには、税金投入（消費税増税）意味がよく理解出来、増税反対者に対しての理論武装も学べて良かった。

（参考となる重要部分の資料を一部添付）

# 議員セミナー受講報告書

【太田広則】



研修日時：平成26年11月14日（金） 13：30～16：30

研修先：メルパルク京都

研修項目：地域福祉政策の立案に向けて

～地方議員が今取り組むべき課題基礎編～

## ○所感

研修タイトルに非常に関心を持ち、今福祉政策に取り組むべき課題は何なのか？多いに勉強したくて受講を申し込んだ。

公益社団法人かながわ福祉サービス振興会・理事長 瀬戸恒彦先生が講師であった。

とてもユニークな理事長で、冒頭にどんな思いで議員になったのか？自分の住んでる所をどうしたくて議員になったのか？をそれぞれ書けとなった。

そして受講議員の中から、1期、3期、5期以上の議員を勝手に名簿見ながら選出され皆さんに披露する事と相成った。

あいにく3期目の議員に自分しかおらず、自分が披露する羽目になった。

その後、名刺交換会となり前日から何処の誰かも解らなかったのであるが、その名刺交換によって一気に研修の場が和んだ。

悔やまれるのは、この研修が昨日のトップのセミナーであったならばもっと違っていた様に思えた。

セミナーの内容は、今後の高齢社会の展望で2005年から2030年へ後期高齢者倍増、大都市圏で迎える未曾有の高齢化に対し、今までの地方圏の対応の延長は無理、社会的なイノベーションが必要というが、大変気になった。

内容的には、昨日学んだ地域包括ケアシステムも重要な福祉政策である為、重複で学ぶ部分もあったが、今後増えるであろう認知症施策の推進の所では、認知症施策5ヵ年計画の所で、これまでのケアは、認知症の人が行動・心理病状等により「危機」が発生してからの「事後的な対応」が主眼だったのに対し、今後の目指すケアは「危機」の発生を防ぐ「早期、事前的な対応」に基本を置かなければならない。という事で、がん治療同様、予防も含め早期発見が重要との認識を深くした。

また、地域においては、地域ケア会議をひらく事が出来るか出来ないかが、大変重要な事であるとし、それがそのまま地域の街づくり福祉政策となっていくという事で、やはり共助、互助の精神がとても重要との意識付けを深くさせられ、とても意義深い研修であった。

（前2回研修同様、参考資料を一部添付）